

告示	番号	68	内分泌疾患
	疾病名	中枢性塩喪失症候群	

中枢性塩喪失症候群

ちゅうすうせいえんそうしつしょうこうぐん

概念・定義

中枢神経疾患罹患時あるいは罹患後に、低ナトリウム血症を来すことがある。その主たる病因として、ADH 不適切分泌症候群 (SIADH) が挙げられる。SIADH では、ADH が不適切に多く分泌されるため、水分貯留を来す。一方、尿中の塩排泄が亢進し、細胞外液が減少して低ナトリウム血症と脱水症を来した状態を、中枢性塩喪失症候群 (CSW) と呼び、SIADH と区別している。

SIADH でも、貯留した水分を排泄しようとして、尿中 Na 排泄が増加する。SIADH の診断に、尿中 Na が 20 mEq/l が含まれているのはこのためである。CSW は SIADH における Na 排泄がさらに亢進し、大量の Na を排泄しようとするために低 Na が悪化する状態であり、SIADH の延長上にある病態であり独立した病態では無い、という考え方もある。しかしながら、体液量については水分過剰であるか、脱水であるかという逆の病態であり、治療法も異なるため、二つを区別することが臨床上是わかりやすい。

症状

脱水症状に加え、意識レベルの低下などを伴うことがある。脱水により低血圧や血液の濃縮が観察される。

通常、脳外科手術やくも膜下出血などの脳血管障害のイベント後、一週間から 10 日以内に発症するが、遅れて発病することもある。

治療

Na 補充、脱水の補正。

基本的に、等張液で輸液するが、尿浸透圧が 300mOsm/kg を超える場合、高張液の投与を行う。

フルドロコルチゾンを使用することもある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_9_14.html